

11 月度 環境講演会「海洋プラスチック問題が

私たちに及ぼす影響」のまとめ

2019.11.22 地球環境に学ぶサークル 原田一成 記

開催日 2019年11月22日（金）14:30~16:00

開催場所 新所沢公民館ホール

講師 中井 八千代氏（容器包装の3Rを進める全国ネットワーク運営委員長、他）

主催 ところざわ倶楽部、 応援 地球環境に学ぶサークル

資料 講演レジュメ、冊子「増訂版容器包装をみなおそう！」

前置き

サークルの定例会では環境省素案「レジ袋の有料化などのプラスチック廃棄物の削減戦略」や「プラスチックごみの現状」を新聞や市民大学資料（東京農工大学高田秀重教授の東京湾汚染実態研究）などで勉強してきました。

さる2019年11月22日ところざわ倶楽部総会後に行った中井八千代氏による環境講演会「海洋プラスチック問題が私たちに及ぼす影響」を全面的にバックアップしてまいりました。

講演会内容概要



講演会風景

講演では年々増加するプラスチックの生産量（2015年 3億8千万トン）そして毎年800万トン以上がゴミとして海に流れ込んでいる状態を地球全体の図で説明されました。

日本の自動販売機の量は世界1 50人に1台の割合。ペットボトルは年間約230億本が生産され15%強が未回収（約34億本）。また、総リサイクル費の80%以上が地方自治体の税金が使われている現状に対しては経済協力開発機構（OECD）が提唱した拡大生産者責任（Extended Producer Responsibility：EPR）を取り入れることが重要であると。

EPRとはその製品の生産者に負担させるようにするもので、そうすることで、処理にかかる社会的費用を低減させるとともに、生産者が使用済製品の処理にかかる費用をできるだけ下げようとするのがインセンティブとなって、結果的に環境的側面を配慮した製品の設計（リサイクルしやすい製品や廃棄処理の容易な製品等）に移行することを狙っている。

欧州では循環型経済（サーキュラー・エコノミー：徹底した回収・リサイクル、省資源製品の開発、シェアリングなどを推し進めることで、できるかぎり新たな天然資源の使用と廃棄物を減らす経済システム）が進んでいますが日本では1995年に容リ法を制定し、一定の成果を得ましたが、2R（リデュース・リユース）が遅れ、リサイクルも停滞し深刻な海ゴミ問題を引き起こしています。

国の政策が遅れているのをじっと待っているわけにはいきません、

私たちに出来ることを始めましょうと中井八千代氏は訴えています。

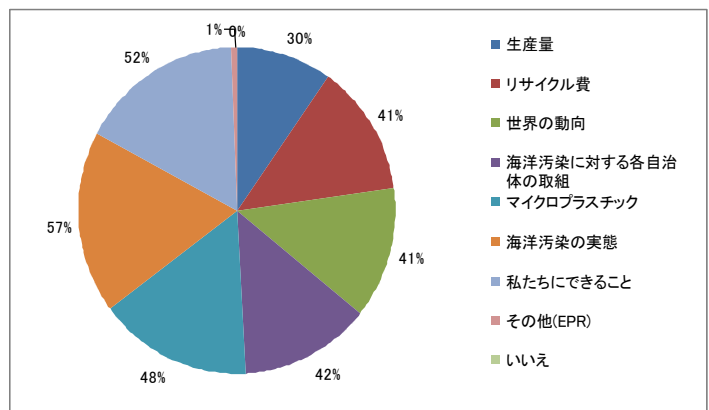
- ・使い捨てプラスチックは買わない・貰わない
- ・マイボトル・マイバックを持参する
- ・ばら売りや簡易包装のものを選ぶ
- ・レジ袋有料化やノートレイなどを実践しているエコショップを利用する 等々・・・

アンケートのまとめ

講演会参加者約110名（一般約20名、ところざわ倶楽部会員約90名）、アンケート回収70名結果を以下に掲載します。

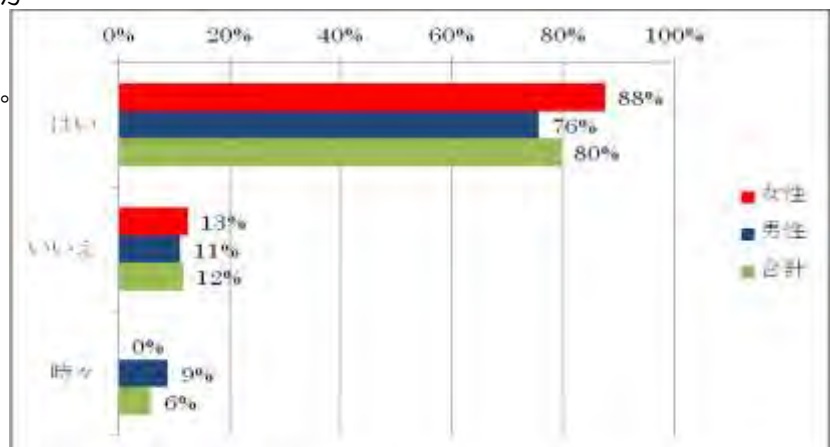
（１）アンケート結果

- 1) 全般的な評価男女共 「良い」97%
- 2) 海洋プラ減らすためにはどうすればよいか分かりましたか 「はい」97%
- 3) プラスチック問題で何か注目しましたか「はい」が100%で「どのような点に注目しましたか」に対しては右図のようにほぼ満遍なく注目されていました。



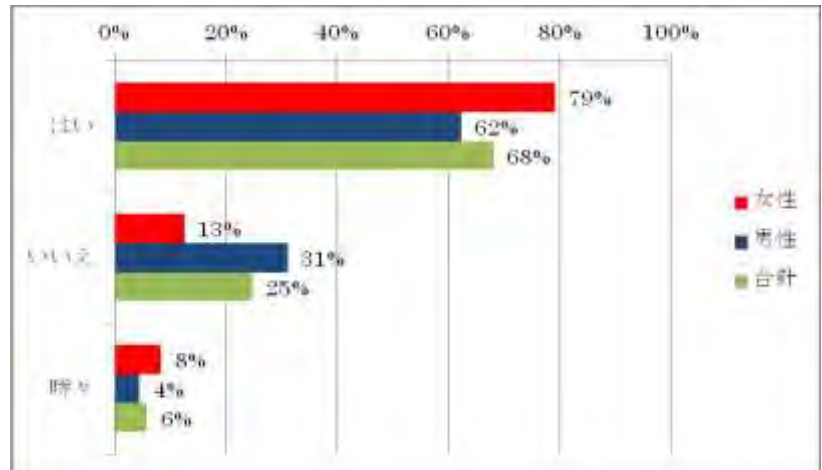
4) 買い物にマイバック使っていますか

男女ともに意識の高さが伺えます。



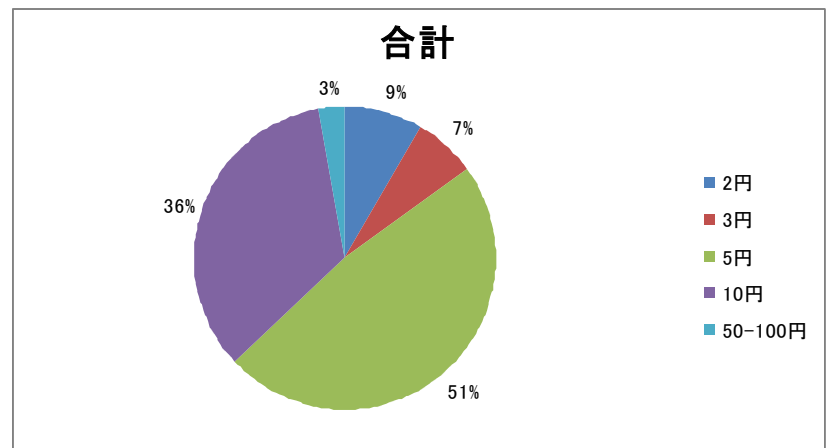
5) 飲料のマイボトル携帯していますか

女性の方が少し意識は高いですが
全体の意識の高さが伺えます。



6) レジ袋を有料化するならいくらが妥当か

半数以上が5円以上でした。



(2) プラスチック汚染問題についての感想文、等

(2. 1) 女性

1) 一般の方

- ①プラスチックが作られる時添加剤等のこと知れてありがたかった。孫たちに今日の事伝えていきたい
と思います。近くから伝えていくことが大切かと感じました
- ②食品トレーやペットボトルは減らしていくべきだと思います。「きのこ」にトレーいつもなぜ?と思い
ながら買っています。「貝」は怖いと思った
- ③プラスチック容器の生産量何故減らすことができないのかこれが一番の問題だ
- ④レジ袋小3円中5円大10円
- ⑤結婚した頃、40年以上前に気付いたのがプラスチックゴミが急に多くなってきた事でした。プラスチ
ックゴミが多くなったなあと思いながら何もしないで静観してきました。あの時何が出来たのだろう
か?との思いと、ここまできてしまった今、何かできる事から行動したいと思い出席しました

2) 倶楽部会員

- ①早急に全廃
- ②道に落ちているペットボトル、レジ袋等拾う

- ③リサイクル費用を自治体が払っていることを若い人に伝えたい
- ④自動販売機を減数する事は考えられないでしょうか？
- ⑤政治と会社の癒着が考えられないか？ゆえに法制化出来ないのだろうと思う
- ⑥海洋プラスチック問題良く分かりました。日常の生活を反省しつつ過ごしたいと思います一人一人が
一国一国が 30 年後 50 年後 100 年後を考えないといけないですね
- ⑦リサイクルの為に費用の考え方、一人一人の意識を高めないといけないと思いました。3R の意味がよくわからなかった
- ⑧3R については実行出来ているつもりだが気が付かない部分があった、気を付けねば、生産者にリサイクル費用を負担させるべきだと思う
- ⑨クラブ生協リユース（調味料、牛乳等）している
- ⑩毎月カルチャーパークでゴミ拾いしています。町中でも以前はやっていました
- ⑪レジ袋有料化ですいぶん時間がかかっています、もっと基本的なことから早急に決めていって下さい
- ⑫各自が便利の為に購入しない（不便を苦としない）、100 円ショップ・プラ製品を購入しない

3) 倶楽部会員希望テーマ

- ①説明等を聞いて一過性に終わる。実際に回収協力に努力する資本主義の世の中では各企業が利益を生み出す為に研究開発しているがその様な企業に見学する機会を作って貰いたい

(2. 2) 男性

1) 一般の方

- ①自分に出来ることを考え、実行していく決意ができた
- ②よく分かりました。勉強になりました。問題の入り口にたどりつきました
- ③「まとめ」の私たちに出来ることを一つ一つ地道に実行すること

2) 倶楽部会員

- ①技術革新！！
- ②実態写真と弊害をしっかりと教育していくことが大切と思う（小中学校、子育てのど）
- ③インド、西欧が先だって押さえているのはすばらしい
- ④やり方の重要性がわかった
- ⑤ペットボトルのポイ捨てが大きな原因であることに驚きました。ラルの欠陥がひどいこともわかりました
- ⑥たいへんよくわかりました。自分自身でできることをより積極的にすすめたいと思います
- ⑦石油製品からの離脱
- ⑧地球上のゴミ（プラスチックだけでなく、原発のゴミ、宇宙のゴミ等）をいかに減らすかが、現在から未来への重要課題だと思う
- ⑨ペットボトルを削減する方法を含めて政治がやらなくてはならないと思う JAMSTEC に行った時に深海にもたくさんあり深刻な問題である
- ⑩サーキュラーエコノミーは理想的だが、日本人の生活の考え方の総論賛成各論反対という思考を変えるのは大変、習慣づけを段階的にキチット実施出来るようにしてゆく以外なし。各自治体で統一した制度にする、せいては事をしそんじる
- ⑪サーキュラーエコノミーの推進の必要性が理解できた

- ⑫子供の頃泳いだ海はキレイだった
 - ⑬レジ袋は減らすのではなく廃止にする
 - ⑭ポイ捨ては人間本来のモラルがない。ごみひろい活動は今後も継続
 - ⑮重大な問題だと思います。温暖化と同じく問題点が分かっているので解決方策の実施に速やかに取り組むべきだ
 - ⑯プラスチックを「べき論」で減らすのは容易でない。炭素税／環境税を増すことで価格UP／量を減らし且つ処理費にあてる、それと単純な禁止を法律で決める
 - ⑰何故日本が世界から遅れているのか、政治まかせにせず、個人が徹底的に削減努力することが大切
 - ⑱バイオマスプラが増産されると良いと思った
 - ⑲販売値を決めるにプラスチック使用しないよう重要課題に取り組む。消費する側も重視する
 - ⑳全廃への積極的取組の必要性
- 5) 倶楽部会員希望テーマ
- ①放射能汚染について
 - ②自然災害を減少させるために私たちがやるべきこと
 - ③この運動を広げたい
 - ④地球温暖化；種子法廃棄；環境ホルモン；香料

まとめ

約 8 割の人がマイバッグ、マイボトルを使っているアンケート結果から、プラスチックの氾濫に危機意識を持っているだけでなく、自分たちで出来る事からやっていこうという意志の表れを感じました。

所沢市のホームページに「ペットボトルごみの削減に向けて」の記事が載っています。

暮らしの中にあふれかえる、使い捨てされてしまうプラスチック。

その一つがペットボトルです。

清涼飲料用のペットボトルだけでも、国内出荷本数は 227 億本（2017 年度）。

一人当たり年間 179 本飲む計算です。

使い捨てされてしまうプラスチックの利用をやめてみませんか？

一部の公共施設に、**マイボトル専用の給水スポット**（ウォーターサーバー）を設置しています。

この給水スポットは、マイボトルをお持ちの方なら誰でも無料で自由に利用できます。

ペットボトルなどの使い捨てプラスチック容器の利用を減らし、ごみの削減や循環型社会の形成に向けた意識を高めるとともに、マイボトルの持ち歩きを推進するものです。そのため、プラスチックコップ・紙コップなどの使い捨て容器はご用意しておりませんのでご了承ください。

マイボトルをお持ちいただき、ぜひご利用ください。

私たちにできることからの第一歩です。世界からどんどん遅れて行く日本、恥ずかしくない生き方を！

以上